

## 降誕節第2主日礼拝 説教要旨(1月4日)

『主の恵みの年』 イザヤ書 61:1-11 早川 真牧師

誰かに傷つけられる時、私たちはすぐに報復したくなります。しかし報復すると更に報復が生まれます。そのため報復されるのが怖くて報復するのを止めるということもあると思います。しかし報復される恐れゆえにやめた報復の思いは心の内にくすぶり、いつか仕返ししてやろうという隠れた火種になります。その火種はいつか炎となり、相手と自分に大きな火傷を負わせてしまうことでしょう。

報復をしたい思いを捨てる最も良い方法は神の報復に委ねるということです。神はその人の全てをご存じの上で適正に報復してくださいます。その神の報復に委ねる事こそが、報復したい思いを手放す最善の道であるといえます。

イザヤの時代も今も世の中には報復が溢れています。しかしそのような世界を救うためキリストは世に来られました。キリストによって示された神の愛は、私たちの頑なな心を神に向かって開かせ、主の恵みを私たちにもたらしめます。イザヤはキリストが世に来られる700年も前に聖霊によってそのことを預言し、キリストが来られた時、その預言の言葉は実現しました。

私たちがこれまで経験してきた恥、痛み、悲しみ、嘆き、それらは耐え難いものです。しかしそのような傷がイエス・キリストに出会う時、神の愛によって恵みに変えられ、癒されていきます。その喜びは賛美となり神の愛する人々の救いのために用いられていくことでしょう。

過ぎた年、私たちは人を傷つけどまた傷つけられてきたことであろうと思います。その全てを神はご存じの上で私たちに今朝、主の恵みの年を告知されます。それは私たちの嘆きに変えて喜びを、暗い心に変えて賛美の衣をまとわせてくださるという告知です。この2026年が私たち一人一人にとっての主の恵みの年となるように共に祈りを合わせたいと思います。